

E科

保育者養成校学生の科学的思考を育成するための学習環境の開発

大森雅人

これまで保育者養成校学生を対象に、科学的思考を育成するための教育方法の開発に取り組んできた。その過程で、共同学習が効果的であることが分かった。そこで共同学習を支援するために、クラウドサービスを活用した学習環境を構成して、学習効果の検討を行った。その結果、教育効果があることを示唆する結果が得られた。しかしながら、課題も見つかり、改善の余地があることが明らかになった。そこで本発表では、課題を踏まえて新たに開発を進めている学習環境について、そのコンセプトと概要について報告する。

新たに開発を進めている学習環境のコンセプトは、ネットワークインフラが整備されていない戸外や普通教室でも活用可能であり、なおかつ持ち運びができる「モバイル学習環境」である。構成は、データベースサーバとして使用するノートパソコン1台、無線LANのアクセスポイント機器1台、アクセスポイント用ポータブル電源1台、タブレット端末（必要数）である。この学習環境を用いることにより、フィールドにおける体験的な活動によって気付いたことをリアルタイムに共有するとともに、シームレスに普通教室における学習に移行して、そこでより深い共同学習をすることにより、効果的な学習が可能となる。また持ち運びが可能なので、キャンパスを離れての体験的な学習の場面でも活用でき、その学習効果を向上させることが期待できると考えている。

N科

ケア/ケアリング研究の動向と本学看護学科基礎看護学の取り組み

長尾厚子

鎌田美智子、尾崎雅子、十九百君子、鈴木ひとみ、谷口由佳、南部由江

看護におけるケア/ケアリング研究は、患者-看護師間の相互作用の明確化や倫理的課題の検討、看護学生の看護者としての資質育成に重要な示唆を与えるもので、看護の本質を明らかにするという意義がある。2008～2013年の過去5年のうちに公表された原著論文は、86編と増加しており、その特徴は質的研究が約57%で、2011年以降さかんに行われている。内容としては看護師や看護学生への面接および記述された内容の分析によって、研究対象者のケアリング行動やケアリング体験を明らかにするものが多く、また看護教育においてケアリングを学ばせるための学習方略の検討も多くみられる。

本学看護学科はヒューマンケアリングを行うことのできる看護者の育成を教育目標に掲げ、カリキュラムを構築し基礎教育にあたっている。とくに基礎看護学領域では、患者-看護師間の良好な関係形成に関する教育内容を、単にコミュニケーション技術の修得にとどまらず、短期大学部の時代よりケアリングを学ぶための内容としている。それには模擬患者とのセッションを導入し、より臨床場面に近い学習場面を経験する機会を作っている。また、その教育効果を研究的に明らかにする試みも行ってきた。

今回の発表では、看護におけるケア/ケアリング研究の動向をふまえ、本学看護学科基礎看護学領域がこれまで行ってきた教育活動とその成果について報告する。